



標記の集中講座は、GTAP モデルの開発者である米パーデュー大学農学部（農業経済学科）の Thomas W. Hertel 教授のチームが毎年夏に世界各国から参加者を募り、本モデルに関する集中講座を 8 月に実施するものであり、1993 年以来、本年度で 12 回を数える。

GTAP (Global Trade Analysis Project) モデルとは、Hertel 教授が中心となって開発した、世界全体をカバーする、農業のみならず、経済全体を取り扱う一般均衡モデルであり、現在、世界 66 カ国・地域と 57 産業分類を包括し、二国間貿易を扱うことも可能なことから、パーデュー大学の開発当初からの普及戦略とも相まって、FTA の分析など、年々ユーザーが増加しつつある。

この集中講座に参加を希望する者は、GTAP モデル・ソフトウェアの購入者であり、かつ、5 月に開始されるインターネット上での講習（音声付きの Powerpoint による講義を聴き、毎週末に設定される締め切りまでに宿題を提出する）を受けることが必要である。また、夏期集中講座の参加者は 30 数名に限られている。本年の参加者は、アメリカの大学院博士課程に在籍中の学生や、国際機関、世界各国の研究所で働く研究者など、様々であり、19 カ国 33 名であった。

夏期集中講座は 8 月 7 日（土）に開始され、8 月 13 日（金）まで、日曜日も休みなく、8:30 から 21:00 まで、綿密なスケジュールに従って行われた。講座は、大きく分けて、2 種類に分類される。まず、Powerpoint によるプレゼンテーションを見ながら講師による講義を聴く授業と、実際に講義を聴きながら自

分で PC を操作しモデルを動かす授業である。

まず、7 日は、GTAP モデルの概観に関する講義が行われた。

8 日は、主にデータベースやモデルを均衡状態に閉じるための Closure に関する講義が行われた。9 日は、最終需要、Welfare（厚生総額）、関税削減を行った場合における結果の解釈等モデル結果の解釈などに関する講義が行われた。10 日は、引き続きモデル結果の解釈に関する講義が行われた後、技術進歩とモデルの関係を学ぶとともに、受講者を四つのグループに分け、最終日にこのグループからそれぞれ 2 人がチームになり、グループのテーマに応じたモデル分析の結果を 10 枚程度の Powerpoint にまとめ、発表するための作業を開始した。四つのグループに与えられたテーマは、(1)北中南米における FTA、(2)EU と南アフリカ間の FTAA、(3)不完全競争、(4)エネルギー、であり、その枠組みの中でより詳細な分析を行うものである。この作業は、主として夕食後 PC を使用して自主的に行われ、インストラクターが必要に応じ助言を行った。11 日は、10 日に与えられたテーマのうち、「不完全競争」と「エネルギー」に関する詳しい講義が行われた。12 日は、終日翌日の最終発表の準備を行った。13 日の最終発表は、私はインドネシア人と組んで、NAFTA と南米が FTA を締結し、その際、非熟練労働力の移動が困難な場合の影響の分析を行い、「繊維」セクターへの影響が大きいという分析結果の発表を行った。

本講座は、パーデュー大学のチームによりとてもよく組織されているものの、短期間で多くの事を学ぶため、集中力をとぎれさせないことと、適宜復習を行う事が一番の課題である。